朝日新聞 新聞定価 朝夕刊月ぎめ 3,925円(本体価格 3,738円、消費税 187円)、1部売り(税込み)朝刊 150円、夕刊 50円 第3種郵便物認可

# ものづくりあきらめない

北九州市 50年 未来へ

1面から続く

1990年代半ばまで、旅のガイド本にあまり登場しなかった都市へ、世界から観光客が集まる。

スペイン北部バスク州のビルバオ。観光客がまず向かうのは、ビルバオグッゲンハイム美術館だ。97年、近現代美術で知られる米国のグッゲンハイム美術館の分館としてオープン。銀色に輝く曲がりくねった奇抜な外観で有名になり、年間100万人が訪れる。ビルバオの人口の約3倍だ。

ビルバオは鉄鋼業と造船業で栄えた「鉄のまち」だった。だが、基幹産業が不況に陥った70年代以降、斜陽に。州や市は文化による都市再生を目指した。美術館を核にした町づくりを進め、ほとりを流れる川は浄化され、観光業などで多数の雇用も生まれたという。

一方、日本の「鉄都」北九州市。80年代半ばから景気が冷え込み、製鉄業などの合理化で働き盛りの世代が流出した。高齢化も進む北九州市はいま、働く世代を増やす産業面からの再生にアプローチする。

## エコ・地場企業育成に活路

豊光社の省エネ蛍光灯。出荷前に明るさや消費電力がチェックされる＝4日、北九州市小倉北区上到津、溝脇正撮影

対極の街づくりをすすめるビルバオと北九州市。都市再生の研究で二つの「元鉄都」に足を運んだ岡部明子・千葉大大学院准教授は「人口は減っても質の高い雇用と生活の質を確保できるかどうか」と、それぞれの「持続可能な都市」づくりに注目する。

■ ■

日本中がバブルに沸くなか、停滞する北九州は地道な製造業にこだわった。

「時流は『重厚長大産業、さようなら』だったが、ものづくりにこだわる声が企業の中で強かった。だから捨ててしまってはおかしくなる」。87年から20年間、市長を務めた末吉興一さん(78)は、就任時の思いをこう振り返る。

市が目を付けたのが環境産業。深刻な公害を克服した取り組みや企業の技術などが国連から表彰された。リサイクル関連企業を集めて育成を図るエコタウン事業は活路を求めた一例だ。

■ ■

1月23日、タイ・バンコク。各国の環境企業が集う見本市会場の一角で、「北九州環境技術セミナー」が開かれた。北九州市が、浄水装置メーカーなど7社がPRする場を設けた。

その1社、豊光社は、近くタイで省エネ蛍光灯の量産に入る。この日、渡航した倉光宏社長(34)が現地企業と販売代理店契約を結んだ。市の補助金を得て市場調査を進め、バンコクで生産子会社を立ち上げた。タイを足がかりに設備投資が多いアジア新興国へ売り込む狙いだ。

もとは家電大手を取引先にする電子基板メーカー。3年前から、パソコンのバックライトなどに使われてきた極細の蛍光管を実用照明に転用。「従来の蛍光灯より長寿命で省エネ。LEDより安く明るい」と国内で販売実績を重ねた。「発注に頼る下請けから、オリジナル商品を持つ独立メーカーに生まれ変わった」と倉光さんは話す。

■ ■

市が策定を進める「新成長戦略案」では、製造業だけではなく、サービス産業を含めた「地域企業」の育成をトップに掲げた。担当課幹部には、昨年閉鎖された東芝北九州工場のことが脳裏にあるという。約590人の従業員は他工場などに配置転換されたり、退職したりした。

第一生命経済研究所(東京都)の梅本守・上席理事(58)は東北財務局長時代の2006年、地元財界や自治体に「企業誘致から地場企業の育成に転換すべきだ」と訴えたことがある。誘致したコールセンターや工場が撤退する姿を見てきたからだ。「企業誘致は一時的に雇用を増やす。だが企業を地元に根付かせるには、地場企業を育てるしかない」と話す。(荻野好弘、菊池文隆)

◇

北九州市は未来に向けてどう脱皮を図るのか。九州初の政令指定市のこれからを考える。

# 前社長は泰道元幹部

## アースハート 勧誘手口 模倣か

「ハンドパワー」と称する治療法のセミナー企画会社「アースハート」(福岡県篠栗町)の脱税事件で、前社長の野中邦子容疑者(65)は、「手かざし」による治療名目で会員を集めて社会問題になった「健康を守る会・泰道」の元幹部だった。この二つは勧誘方法などが似ており、被害者側の関係者は、アースハートの手口は泰道の模倣ではないかと指摘している。

泰道をめぐっては、福岡、佐賀、長崎県の元会員らが1996年、損害賠償を求めて提訴し、97年に解散した。訴訟では、その手法を「詐欺的な勧誘方法」と批判し、泰道側に賠償を命じる判決が確定。関連会社が91年から3年分で約48億円の所得隠しをしていたことも明らかになった。

アースハート被害対策弁護団長で、泰道に対する訴訟でも原告代理人だった大神周一弁護士によると、野中容疑者は泰道の会員で、92年には、他の会員を指導する「指導員」か「講師」になっていたとみられる。アースハートに対する損害賠償請求訴訟では、同社側も野中容疑者が泰道の幹部だったことを認めている。

大神弁護士によると、アースハートと泰道には似た点が多いという。

泰道への損害賠償請求訴訟の判決によると、泰道は86年に佐賀市で設立。手かざしで病気が治るとうたいその力を得るための塾費などとして現金を集めた。一方、アースハートは泰道解散3年後の2000年に設立。「ハンドパワー」で病気を和らげるなどとしてセミナー費を集めたとされる。

いずれも手をかざすことなどで病気を治したり、飲み物の味を変えたりできるとし、そうした力の根源は代表者にしかないと説明していた点が共通している。新たな会員の勧誘を、泰道が「覚生」、アースハートは「覚醒」と呼び、知人などを誘うよう促していた点も似ているという。

また、アースハートは06年、宗教法人「ひのもと」の代表権を数千万円で買い取ったが、泰道も宗教法人格を取得していた。

# 店員脅し55万円強奪

## 佐賀のホームセンター 2人組逃走

4日午後8時半ごろ、佐賀県神埼市神埼町尾崎のホームセンターの男性店長(25)から「強盗が入った」と110番通報があった。県警神埼署によると、午後8時10分ごろ、2人組の男が店に侵入。店内の事務室で店長と女性従業員(54)を包丁のような物で脅して粘着テープで縛り、売上金など55万円を奪って逃げた。2人にけがはない。警察は強盗事件とみて調べている。

男は2人とも20歳ぐらいで身長約170センチ。服装は1人は黒い野球帽、灰色のパーカに黒っぽいズボン。もう1人は黒いニット帽、黒い長袖シャツにベージュのズボンだった。

# 玉名市職員らに覚醒剤所持容疑

## 熊本県警が逮捕

熊本県警玉名署は4日、荒尾市野原、玉名市企業局下水道課工務係主査、森敬祐(40)と、同居する飲食店従業員大柿羊子(44)の両容疑者を覚醒剤取締法違反(所持)の疑いで現行犯逮捕し、発表した。森容疑者は容疑を否認、大柿容疑者は「私が使うつもりで持っていた」と容疑を認めているという。発表によると、両容疑者は同日午前9時ごろ、自宅で覚醒剤約1・27グラムを所持した疑いがある。この日、自宅や同市役所岱明支所を家宅捜索し注射器約100本などを押収した。

きっと見つかる
あなたの会計ソフト!

理大の入試

容疑

福岡県

費をめぐ

時所在が

市職員田

3日に

が、福岡

見され

テルに偽

ことがわ

田中容疑

しながら

て調べて

県警に

者は2日

に偽名を

た。車と

く、公共

各地を移

があると

中心に数

入機(A

出してお

費を調達

田中容疑

犯とされ

1月29日

からなど

日夕、自

るところ

見つかり

中容疑者

(62)から

▽実物

いるのに

「アイド

天神のフ

イムズに

00円で

▽イラ

島尚美さ

本人の特

な瞳に見

色づかい